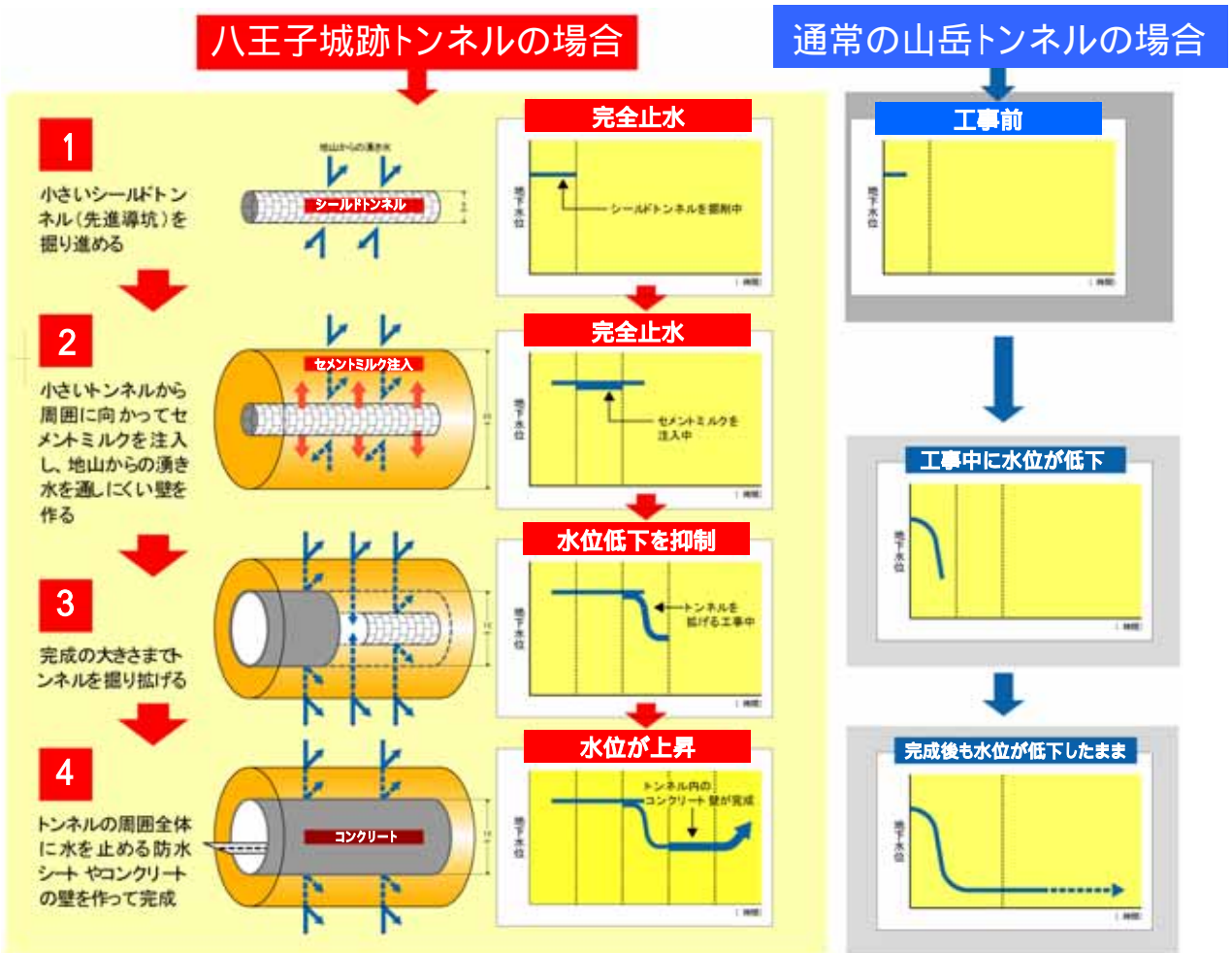


八王子城跡トンネルでは新技術で水環境を保全する工法を採用しています。*

- 完全な止水構造により、計画どおり地下水位が上昇
 - 水環境を保全するために最新の技術を用いた地盤注入による『止水工法』の採用により、完成後は水圧125トン/m²に耐えられる完全な止水構造としました。
 - その結果、工事施工中に低下していた地下水の水位は止水構造の完成に伴い計画どおり上昇しています。
- 工事施工中の湧水を1/4に制御
 - トンネルの周囲5mに高い圧力でセメントミルクを注入する『止水工法』により、施工中についても湧水の量をセメント注入を行わない区間の1/4程度に制御しました。

*通常の山岳トンネル工事では

湧水により掘削中にトンネルが崩壊することを防ぐため、水を抜きながら施工を進め、完成後もトンネルに水圧がかからないようにするために水を抜き続けるのが普通です。



シールドトンネルでは、大きな地下水低下は起こりません。